

全国市議会議長会欧州都市行政調査報告書

長崎市議会議員 井原 東洋一

訪問の目的

欧州各都市における地方自治の実態や行政施策の実情について、調査研究を行い、今後の市政振興に資するとともに、訪問先の関係者との交流や意見交換を通じて相互の理解と認識を深め、国際親善に寄与することを目的として、全国市議会議長会主催による平成 26 年度欧州都市行政調査団（15 市 28 名編成）に参加し、欧州各国の 3 都市を訪問しました。

以下、その概要についてご報告いたします。

訪問期間 平成 26 年 10 月 8 日(水)～平成 26 年 10 月 16 日 (木) (9日間)

訪問都市 英国：ロンドン
スウェーデン：ウプサラ
オランダ：アムステルダム

日 程

月 日 (曜)	発着地/滞在地名	視 察 地	摘 要
10月 8日 (水)	東京(羽田) 発 ----- (日付変更線) ロンドン 着		【所要時間：12時間30分】
9日 (木)	ロンドン	(財)自治体国際化 協会ロンドン事務所	○英国(並びに北欧・オランダ)の 地方自治制度について、並びに今後 の調査事項についてのレクチャーを 聴取
10日 (金)	ロンドン	ケントカウンティ市 議会公式訪問	○地方行財政及び施策についてのレ クチャー
11日 (土)	ロンドン 発 ストックホルム 着 ウプサラ		【所要時間：2時間25分】 陸路、ウプサラへ
12日 (日)	ウプサラ	スカンセン野外博物 館	○歴史的建造物の保護についてのレ クチャー
13日 (月)	ウプサラ ストックホルム 発 アムステルダム 着	ウプサラ市議会公式 訪問	○地方行財政及び施策についてのレ クチャー 【所要時間：2時間05分】

月 日 (曜)	発着地／滞在地名	視 察 地	摘 要
14 日 (火)	アムステルダム	ホーテン市議会公式訪問	○地方行財政及び施策についてのレクチャー
15 日 (水)	アムステルダム アムステルダム 発 ロンドン 着 ロンドン 発	有機農業センター	○テーマ：食の安全対策についてのレクチャー 【所要時間：1時間15分】 【所要時間：11時間45分】
16 日 (木)	東京 (羽田) 着		

1 主な視察先

英国

- ① (財) 自治体国際化協会ロンドン事務所
- ② ケントカウンティ市議会公式訪問

スウェーデン

- ③ スカンセン野外博物館
- ④ ウプサラ市議会公式訪問

オランダ

- ⑤ ホーテン市議会公式訪問
- ⑥ 有機農業センター

2 視察の目的

- ① 英国（並びに北欧・オランダ）の地方自治制度について、並びに今後の調査事項について
- ② 地方行財政及び施策について
- ③ 歴史的建造物の保護について
- ④ 地方行財政及び施策について
- ⑤ 地方行財政及び施策について
- ⑥ 食の安全対策について

3 視察概要

【グレートブリテン及び北部アイルランド連合王国（通称：英国）】

- ① 面積 24.3 万 k m²（日本の約 2/3 倍）
- ② 人口 約 6,180 万人
- ③ 首都 ロンドン
- ④ 公用語 英語（公用語）、ゲール語、ウェールズ語、スコットランド語など。
- ⑤ 主要宗教 英国国教会が半数以上。他カトリック、イスラム、ヒンドゥー、ユダヤ教など。

【一般財団法人自治体国際化協会ロンドン事務所】

一般財団法人自治体国際化協会ロンドン事務所（現地での名称：JAPAN LOCAL GOVERNMENT CENTER (CLAIR London) は、財団法人自治体国際化協会 [略称 CLAIR (クレア)] が世界7主要都市（ロンドン、ニューヨーク、パリ、シンガポール、ソウル、北京、シドニー）に設置している海外事務所の1つである。

ロンドン事務所は、クレアのヨーロッパにおける最初の海外拠点として1988年に開設され、現在、日本からの職員8名、現地スタッフ4名の体制で運営している。

ロンドン事務所では、英国の他、アイルランド、オランダ、ドイツ、オーストリア、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランドを所管し、主に日本の地方公共団体関係者の海外活動への支援や海外と日本の地方公共団体間の国際的交流の推進を図るとともに、所管各国の地方自治への取組に関する調査研究活動や我が国の地方自治制度等に関する情報の海外の地方自治関係者への提供などを行っている。



調査団は、凡そ2時間にわたり、「英国の地方自治」(概要)、次いで、スウェーデン、オランダについてのレクチャーを受け、質疑応答が行われた。スコットランドの住民投票の直後でもあり、スペインやそれ以外の国でも、独立の動きがあるだけに、中央政府と地方自治体との関係や首長と議会、議会と市民との円滑で発展的な理想形はないのだろうかと思った。何人かの質疑もあったが、自治問題は、権力支配からの独立だけに容易ならざる課題である事だけは解った。隣国との戦い、内戦などの歴史を経て現状があり、自治の形態は個々である。絶えざる改革の必要性に思い至った。



【ケントカウンティ市議会訪問】

ケントカウンティは、ロンドンの南東約60kmの地に在り、ケント州とも呼ばれている。英仏海峡トンネルでフランスとの境界に接し、風光明媚な田園都市で農業が盛んであり、広大な果樹園とホップ園があり、「イングランドの庭」と称されている。製紙業、セメント、石炭が三大産業で、海岸線はリゾート地として有名である。面積は3,600km²、人口183万2千人は、ロンドン、バーミンガムに次いで英国第3位である。全面積の22%に当たる市街地に71%が住み、世帯数は、約630,000世帯(1世帯当たり2.5人)、63,500社の企業のうち約90%が中小企業である。

ケント州は、二層構造のカウンシルで、12の地域自治体があり、州は、教育、学校、道路交通、図

書館、ゴミ・環境政策などのソーシャルサービスを担当し、地域自治体は、福祉、住宅対策、建築許可、駐車場管理、公園管理、公衆便所、ゴミ収集、地方税徴収など、より細かな市民サービスを担当している。但し、メドウェイ地域だけは、州の業務も受け持つ1層方式である。ただ、中央政府は、2010年に



1,560億ポンドの赤字を出し、学校、保健衛生、海外支援は保障するものの、80%の予算削減、20%の増税案を示し、4年間で、公共投資の11%削減、地方への支出28.4%削減を打ち出しているため、地方の責任が増している。ケント州の予算は、18億5千万ポンドだが、うち地方の法人税収入は、4,600万ポンドである。2分の1が国庫負担の教育予算が38%を占める。人口構成は、40歳～50歳が多く、

高齢化問題が差し迫っているのが現状である。職員は約3万人おり、教職員が多く、社会福祉スタッフは約1万人となっている。職員年収は、国の70%程度で平均19,000ポンド。議員は84名のうち女性10名。議員の中から1年交代の市長を選び、執行部(内閣)約10名で州自治の全てに責任を持つ。この日は、内閣から、経済、財政担当の3人が出席され、調査団とミーティングを行った。地方財政の深刻さは、何処も同じだが、ケント州では、10月10日に、2015年度～16年度の財政収支骨子を市民に公表し、意見を集め、公聴会を開いて、来年1月に内閣が最終案を示す民主的な方策を執っている。



【スウェーデン王国】

- ① 面積 約45万k㎡（日本の約1.2倍）
- ② 人口 約930万人
- ③ 首都 ストックホルム
- ④ 公用語 スウェーデン語（公用語）、ラップ語、フィンランド語など
- ⑤ 主要宗教 キリスト教（福音ルター派：国教 人口の88%が国教教会に所属）

【スカンセン野外博物館】

スカンセンは、世界最初の野外博物館で、スウェーデンをミニチュアで表現している。ここでは、北のサーメ族の住居から南のスコーネの農園まで訪ねることができる。スカンセンは、1891年に民族学者アットゥール・ハセリウスによって創設されると、瞬く間に人気を博するようになった。

この博物館では、スウェーデンの全国各地から移築された、様々な時代を特徴付ける160以上の代表的な家屋や農園を見学することができる。これらの家屋や農園のほとんどが、1700年代・1800年代・1900年代のもので、当時の人々が異なる地方の異なる社会階層でどのような暮らしをしていたかを垣間見ることができた。各家々では、その時代の典型的な衣装を着けたガイドが屋内を案内し、その背景を説明してくれる。

植物はスウェーデン全土のものが、その植生に沿って自然に近い状態に形成されており、また動物は飼い慣らされたものから野生のものまで、スウェーデンの動物界に生きる動物に出会うこともできる。

さらに、美しい公園を散歩したり、美味しい食事をしたり、様々なコンサートを聴いたり、夏にはフォークダンスを踊ったり、また実際に仕事中の職人に会い、様々なブティックや工房で販売されている質の高い製品を購入することができる。スカンセンは、クリスマスイブを除き、年間通して毎日オープンしている。



【ウプサラ市議会公式訪問】

スウェーデンで4番目に大きいウプサラ市は、ストックホルムの北北西 64 kmに位置し、アランダ国際空港まで車で約 20 分、首都ストックホルムまで 40 分の通勤圏にあり、大学を中心として栄えてきた人口約 19 万人の町である。ストックホルムの 10 倍の面積を有し、中心部に 75%の人々が住み、周辺部は 25%が住む。2050 年には 35 万人都市への発展を目指している。

1477 年に創立したウプサラ総合大学は、北ヨーロッパ最古の大学であり、現在、約 30,000 人の学生と 500 人くらいの人たちが大学関係で働いている。主な産業は、製造業、製薬業、印刷業、食品加工業であるが、特に製造業は、ハイテクで大学での研究に深い繋がりを持っている。また、1 番成長しているのがコンピュータ業界のコンサルタント業である。



ウプサラ市は、スウェーデンの都市の中でも常にすぐそばに歴史が存在している街である。150 年の歳月をかけ 1435 年に建設されたウプサラ大聖堂、1523 年スウェーデン初代国王グスタフ・ヴァーサにより建設されたウプサラ城など街そのものが歴史博物館である。

ウプサラ Kommun は 8 政党、81 人の議員により運営されており、議員の中から選ばれた 1 年任期の議長が市長に就任し、その下部機関として内閣に相当する執行委員会がおかれ、行政執行に当たる。監査委員も選ばれるが、専門の外部監査も受ける。他の議員は、政策評価の任務をもつ。行政職員はパートを入れて約 15,000 の人が携わっている。支出の大部分は福祉、教育関係で、保育所、小中学校、教育関係に 50%、高齢者、障害者福祉関係に 40%となっている。

ただ、高負担・高福祉の国と呼ばれていながら、失業率が 8% で貧富の差が広がり、不満を抱える若者達による暴動が起こるなどの困難もあり、異常な住宅価格の高騰に歯止めをかけ、国内消費を刺激するため法人税、付加価値税の引き下げを迫られ、9 月総選挙では、雇用、社会福祉、教育が最大課題となった事にみられるように、政権運営の困難は未だ続くのではないと思われる。



【オランダ王国】

- ① 面積 41,864 k m² (九州とほぼ同じ面積)
- ② 人口 1,653 万人
- ③ 首都 アムステルダム
- ④ 公用語 オランダ語 (公用語)、英語、ドイツ語、フランス語
- ⑤ 主要宗教 キリスト教 (カトリック 40%、プロテスタント 30%、その他オランダ改革教会派等)

【ホーテン市議会公式訪問】

ホーテン市は、オランダ王国のほぼ中央部にあり、人口は約 4 万人。化石燃料を使う自動車が環境にもたらす負荷を減らし、快適環境を保全しながら健康で安全なコミュニティを創出する理念に基づいた都市計画を実現し、街中に自転車道路を張り巡らしており、世界的に「自転車の街」として有名である。副市長と国際的な自転車普及促進の責任ある地位を有するホーテン市の役職員から、都市環境の快適な保全、市民の健康、事故の減少など多様な利点から、自転車優先道路整備の都市計画を実現し、更に、南部の新しい地区と結んで 10 万都市への発展を目指している。自動車道は街の外周に建設し、街中への出入り口を制限し、かつ、直線を避けてカーブやジグザグを多用してスピードを抑制し、事故を防止し歩行者の安全を第一にする様々な工夫がなされている。市内の拠点地区を結



ぶ基幹道路の整備に併せて、近い将来 10 万人都市への発展目標を達成したいとのことであつた。



【有機農業センター】

アムステルダム の北東部にあるフレボラント州は 20 世紀になってから干拓で生まれた新しい土地であり、この地域では、1980 年代から有機栽培農業が行われている。



有機栽培農業センターは、フレボラント州の州都であるレリースタットにあり、バイオ生産・有機栽培農業のプロモーションし、生産者の支援、技術指導や情報提供を行って、有機栽培農業の活性化を目指している団体である。有機栽培農業に興味を持つ企業、農家、学生に研修や学習コースを行ったり、有機農業の発展に役立つプロジェクトを行ったりしている。オランダではバイオ生産で作られた商品には bio マークや ECO マークがつくが、これらの認証も行っている。

ここでは、希望により次のような視察内容の手配が可能である。

*オランダのバイオ生産農業、有機栽培農業に関するレクチャー

*近郊の農家訪問

*オーガニックランチの手配



所感

欧州は、地方自治体も概ね議員内閣制であり、市長の権限は限定されている。幾つもの政治勢力が、連立しなければ自治体が機能しない現実があり、その意味では民主的である。英国第3位で、人口約150万人、12の自治体を擁しているケントカウンティ市議会は、二層式議会制度であり、84議席中、44議席の保守党に、英国独立(EUからの)党が17議席で急迫した。予算編成前に予め住民意見を求めた上、公聴会を開き、改めて執行部案を提示するとの取り組みは、学ぶべきだと思った。国情や仕組みの違いがあり、直ちに参考に出来る訳ではないが、民間活用や、住民主体の考え方は参考にした